

# 北支

略號

## 民自治資金之補償

至急電報

宛 次官

甲集團參謀長(北京)

甲才參三電第一七七八號

總經主電第五二〇號關聯

居留民自治資金ニ就テ革側ヨリノ借入及邦人預金ノ引出ヲ  
 許可セラル爲止ムラ得ズ目下居留民保有資金ノ動員ヲ計畫  
 シ其ノ形式ハ總領事名義ニテ之ヲ豫ルコトト致シ居ルモ右資金  
 ニ就テハ内地ニ於テ適當ナル返濟ヲ爲スニトテ考慮セラレ度  
 性質上ヨリモ出來得ル限リノ優遇策ヲ講セラレ度  
 尚資金帶同者ニ對シテハ勞工持歸リ入金ノ支拂率スル又ハ倍ノ  
 例ニ準ジシ之ガ返濟アルモノト期待シ居リ

昭  
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、  
 一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、  
 二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、  
 三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、  
 四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、  
 五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、  
 六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、  
 七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、  
 八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、  
 九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇、

1970

一方米井一ニ對スル日本圓一五、米井一ニ對スル法幣一〇〇、法幣  
一ニ對スル聯銀券五ノ比率ヨリ、日本圓一ニ對スル聯銀券三三  
ニ交換比率モ巷間流布セラル居ル模様ト共ニ右返濟ハ可  
及的速カニ實行セントシテ希望シ居ルニ付配慮アリ度  
南京ハ南京大使館ニ東京ハ外務省及大藏省ニ御傳ハシテ乞フ  
通電先 東京、南京

(終)

1971

# 北支

## 停刊、青島移動

一月三十一日

普通電報

普通電報

### 北支停刊、青島移動

招	ニ	一	ニ	ニ	七
一	ニ	一	六	ニ	七
三	六	一	一	〇	〇
一	一	五	〇	〇	〇
一	五	〇	〇	〇	〇
一	五	〇	〇	〇	〇

次官

秀嶺部隊參謀長(濟南)

秀嶺依頼電第四九號

外務大臣へ 濟南 有野總領事ヨリ

急遽ナル軍ノ復員ニ伴ヒ居留民モ單保護ノ下ニ入ルヨリ

トスル梯團ヲ編成十二月下旬ヨリ逐次濟南ヲ出發セムコトト

ナリタル所 膠濟線隨所ニ破壞セラレ居ル爲ニ通ノ箇所ハ徒

歩スル外ナク青島迄ノ行程約一ヶ月ヲ要ス 恰モ嚴寒ノ候

旅行ノ苦難想像ニ餘クアルモ軍ヲ揚ケ後ノ治安悪化ヲ憂

慮シ在留民中ノ大部分ハ軍ト行動ヲ共ニスルコトトナレハシ

尚梯團ニ參加 歸國費トシテ一人當リ最低聯銀券三萬圓(青

1972

島迄ノ一ヶ月分ノ宿營及輸送費等ニ萬圓 兼船手數料 四  
千圓 青島滞在費六千圓)ヲ要スル所 其ノ負擔ニ堪ヘカ  
者相當多數アリ 種々考慮シタルモ結局政府が將來補償スル  
ニトテ條件トシテ救済金ヲ募集スル等ノ方法ニ依ル外ナカルガ  
目下其ノ手配中

(終)

1973

支

文書  
總務課  
史実部  
渉外課  
資料課  
復員部

略號

緊急電報譯

一月二十八日午前午後一四時

六分發着

第

13號

文書課長以宛

發信者支那派遣軍復員本部長以福岡

支復總覽第一三三號

支那派遣軍岡野參謀ニ傳ハラレ度

貴官今後ノ行動腹案系リ度

一月九日 岡野參謀文書ニテ解悉ス

大野中佐保長

(終)

陸

軍

1974

南方  
各號

朝鮮銀行  
正急電報  
正存款  
正利息

昭

二〇〇一三二八  
一五〇〇  
八〇三  
三〇〇  
三〇〇

光 次官

威經主電第七七號

威部豫總參謀長(西頁)  
女蔵者  
甲入  
手紙

一 復電第七二號 朝鮮 臺灣 直接歸還スルモノ 金錢給與ニ

関シ左ノ如ク處理相成度

向南方地域ニ於ケル本件該當者ハ相當多數ニシテ之ガ取扱ハ

特ニ慎重ヲ要スルモノアリ

二 南方地域ニ於テハ現在資金殆ド凍結セラレアリテ金錢給與ハ

不可能ニ近シ

三 聯合軍ノ認定ニ依リ本件給與許可サルルモ日本銀行券、臺

灣銀行券、朝鮮銀行ノ出張所ハ保有量少キ爲メ給與ヲ充

1975

是シ得ズ證書郵便貯金若クハ南發券ニ依ルノ外ナシ  
三從ツテ右證書等朝鮮臺灣へ持歸リ特ニ朝鮮臺灣  
灣ノ上陸地ニ於ケル通貨ト交換等便宜取扱ニ就テハ聯合  
國最高司令部下協議シ善處方要望ス

(終)

1975-2

支

昭和二〇

五九九三六  
五九九三七

略

南京  
本省

十月十五日  
十六日  
一四三〇〇  
發着

管

吉田外務大臣

堀内代理大使

第一三六號

華僑ノ邦人財産處理要領ニ關スル件

一、中國陸軍總司令部ニ於テハ在華邦人集中管理辦法並ニ在華邦人產業處理辦法ヲ公布十月一日ヨリ實施セルガ右辦法ニ基ク邦人財産處理要領左ノ通り

(一) 邦人私有財産ニ關シテハ地方政府ニ於テ左記事項ヲ調査ス

甲、所有者乙、種類、名稱及數量 (イ) 資産 (ロ) 動産 (ハ) 企業、公司  
洋行、醫院、商店等 (ニ) 機器、機材、貨物、預金等 (三) 所在地  
丁、獲得時、規模、資本總額、成、獲得事由 (イ) 讓受原所有者  
及讓受手續 (ロ) 創設 (ハ) 原認可期間 (ニ) 等其ノ他

(二) 左記各項財産ハ政府ニ於テ接收ス

大 東 亞 省

1976



イ、會社組織ノ經營ニ懸ル總テノ財產

ロ、戰爭中強力ヲ以テ占領セル財產

ハ、中國法庫ニ於テ禁制セル財產

(三) 前項接收財產ハ左記區分ニ依リ之ヲ處理ス

イ、(一)ノイ、項ニ屬スルモノノ中大規模ナル企業、公司、洋行

醫院等ハ中央社幹部ニ於テ之ヲ處理ス、小規模ナルモノハ中

央主管ヨリ地方政府ニ移管シ管理セシム、中國人トノ合法株

式ニ依ルモノニ付テハ中國人ノ株券權益ハ之ヲ保有ス

ロ、(二)ノロ、項ニ屬スルモノハ原有部分ヲ調査明白ナラシメタ

ル上中國及同盟國ノ原所有者ニ返還ス

ハ、(二)ノハ、項ニ屬スルモノハイ、項ト同ジ

(四) 小口財產ニシテ(三)ノロ、ハ兩項ニ該當セサルモノハ當該地區ニ

於テ登記封印スルヲ原則トス

但シ私有ノ衣服物品金錢ニ關シテハ集中ニ當リ(イ)衣服、褸具、

1977

炊爨具、洗濯用具ノ如キ生活必需品及其ノ現有ノ糧食並ニ時計  
圖書等ノ私有物品及(四)一人ニ付法幣五千元(儲備券百萬元)ノ  
携帶ハ許可ス

尙携帶不許可ノ現金(中國日本及其他ノ國家ノ各種貨幣、金  
銀、寶石等ヲ含ム)及貴重品ハ總テ自ラ中國政府銀行ニ預入レ  
シメ以テ將來賠償金ノ一部トナス

ニ當地ニ於テ處理狀況ヲ見ルニ邦人ノ集中ニ當リ前記(四)但書所定物  
品ノ携帶ヲ許可シタル外邦人家屋ハ殘置財産ト共ニ一律ニ封印セ  
ラレタルガ之ガ處理方ニ關シ中國關係當局ニ於テハ(一)公有財産ハ  
市政府ニ於テ接收管理スル外(二)私有財産ニ關シテハ前記ノ辦法ニ  
從ヒ處理スベク(三)正當ナル私有財産ハ調理整理ノ上市政府ニ於テ  
競賣ニ附スベキ旨述べ居レリ(競賣金並ニ會社組織企業ノ接收補  
償金等ノ處理方ニ關シテハ未ダ明カナラズ)

(丁)

紙4タイプライスター用紙 (東東四三七)

フ  
リ  
ー  
リ  
ー  
リ

1979

比島

海軍省 通布

東通 吳通 佐通 高通

昭二〇、一一、一三

發 樺

6

復員收容部 鹿見島支部  
第八七〇五番電

一 樺、桐、椎 一四四五 知治本 何ケ「マニラ」發燃料補給量

「〇」 樺 一三三五 桐 一七二二 一五八四

二 行動豫定

上月十一日、十七日、又十八日、二十日、加治本着十四日

加治本着十五日 廣善

三 收容人員 樺 二〇〇 桐 二〇一 椎 一九九

四海陸軍別(樺)海軍士官〇 下士官二三 兵八  
軍兵男三 先任者上機曹上 關野 勃

1980

陸軍將校一三下士官七一、兵七六、軍雇男六、先任者  
少佐出倉敏信(小林兵團)(桐)海軍一三施設部  
關係軍雇男一六二(本島人)陸軍將校二下士官二内地  
人)兵一軍雇男三三(本島人)一般男子二(本島人)  
(雅)海軍士官二特准二下士官六兵三軍雇男三  
先任者主計大尉奥村義郎(三〇二設営隊)  
陸軍將校一九下士官二六一軍雇男三先任者少佐  
小川ヒロノリ(一七〇師團三九聯隊)外轄各部隊清  
付キ詳細其類

五入院ヲ要スル者海軍一陸軍四

六上陸後ノ飯御先桐大部分本島人其他全國及縣教及苑  
七修理ノ要スル事項各艦並別ノ通  
八十日十二時迄高通過系以後是通過系ニ入ル

(惣)

1981

軍令部	海軍省		氣象	測量	軍部	軍調	參航	陸大	史編	報道	中調	部	三	二	部	一	務	總	
大東亞	外務省	多	兵政	總本	防	防	衛生	建築	衣糧	主計	交通	燃料	兵備	兵務	軍務	防衛	陸	總	
																	經理	副官	長

番號	總務課	主任	課	電報班
點歸主任者	課	點歸主任者	點檢	配布
敵	修	理	費	

秘

電

報

宛

軍務課長宛  
發信者 支那派遺軍兵之謀  
電第 二 一 一 號

二月 六日  
提出 受付 著 發

軍務電第 九 〇 号 二 周 之 名 方 案  
一、日本側ノ賠償ノ範圍ヲ陸軍官ニ依ルニ推定  
若クハ借上使用アリタル中國並ニ米莫等ノ戰產  
ニ付之テ返還謝服ノ情勢上 必要補修費用等事ヲ  
實施若クハ賠償金ヲ交付セザルニ依リテ之ノ若クハ今之  
ガ為 將來問題トシテ 殊ニ不利トスルニ已レ限

1982

發所

電第... 號其

月 日

受附

各譯録

定カツ金額概不五千萬円以下ノモノトス。

但中國側ノモノハ其範圍極大ナラズルヲ以テ差向

將ニ繁要止ムヲ得ザルモノニ限定シテリ

三借入條件ハ中央名義ニ為ト書セラルルニ右不可

取テシバ現地軍(五五〇圓額ナルハシ)トスル他ナカレシ

(事由 中央ノ意圖ニ依リ現地ニテモ折衝致シテ)

三借入額ハ取取不華北五億円トシ其他ハ差白大物ナシ

四華北ニ於テハ十月三十一日現在ニテ實施セルモノニ七件

(五三五〇萬円)懸案中ノモノ一五件ナリノ先々

(天部ノ若英側)要求討一億円ナリ

1983

華北

各地白話博覽會送付要津

第

廿號

至急電報譯

一月一日午前

午後一時三十分發

一九一五年

次官宛

發信者

甲部陳參謀長

(北京)

甲方參三覽第一七四九號

外務大臣へ北京公使ヨリ

華北勞工協會接收ノ際中國側ヨリ要請アリ

ル付内地向華人勞務者名簿(地域別全員)

作製セシメ取纏メノ上最近便ニテ至急發送方

特ニ御配慮相煩ハシ度

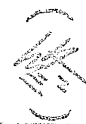
追ッテ當方ニ於テ右基礎資料ヲ當時時局ノ関

係上燒失シタルモノナルヲ以テ念ノ爲

1984



通覽先 次官 參考 第百十八師團



1985

# 北支

署号 普通庶政  
LST 衛生班編成件

昭三〇 一三三  
昭三一 一七三  
昭三二 一八三  
昭三三 一九三  
昭三四 二〇三  
昭三五 二一三  
昭三六 二二三  
昭三七 二四三  
昭三八 二五三  
昭三九 二六三  
昭四〇 二七三

宛次長

田部孫參謀長(悉す)

甲方参三覽第一七五〇號

外務大臣ニ傳ヘラレ度

楠本公使ヨリ(第一五一號)

米置ノ好意ニ依リ草紙箱人ハ「LST」ヲ以テ歸國シ得ルコトトテリシル處 各船互記ノ通日本側ニ於テ衛生班ヲ編成シ船中ノ診療ニ從事セシニ様米負倒ノ要求アリ、目下委員施中ナル 之種々ノ事情ニ依リ近日編成人員ニ不足ニシテ幸シシテ本年甲充當シ得ル狀況ニ付明年一月一日ヨリノ衛生班員ハ必ズ於テ奉屬ニセラレ度 返

記

(704)

1986

衛生班編成内容

一 醫師(單身男子)二名

一 看護(経験)士(單身男子)五名

尚 當方ニ於テハ古衛生班員ノ身分ヲ勤務中軍屬トシテ

醫給養人員ニ於テ擔任シ「語不明」ハ地往復一同トシ

テ資施與ニ付 人心ノ為

終

1987

文書 外務 總務

支山 華北

至 總 電報譯 一二月 八日午前午後 一九時一九三

外務大臣宛 發信者

惠依頼電第二万七號

米田領事館十一月?

三往電第一〇一號ニ際シ本八日當地植務管理局長天野ヨリ來塘シタル  
ニ付面談セル所前電ノ迎轉送ヲ準備シアルモ聯合軍司令部ヨリノ許可  
數量カ若シ三〇〇〇應ヲ超過ニ際シテハ手配ノ都合モアリ早日ニ進報  
アリ度キ旨申渡居リタルニ付確定次第至急進報セラレ度

一終

海外課へ返却

陸軍

第 12 號

12.26 資料

1988

北京

外務省

文書  
外務省  
經理司

至急電報譯  
三月九日午前八時五分發  
第九〇〇番  
第 44 號

次 官 宛 發信者 桐部 隊 參謀 長 (青島)

桐依頼電第六七號

外務大臣 = 傳へられ度

七日辰日丸 = 當地ヲ出發セル引揚者三三五〇名?

八福岡正金銀行支店宛 圓建一千圓送金小切手

ヲ携行セシメタル = 付日本銀行券トノ交換 = 付然

ルバク御配慮願度

右正金銀行支店 = 通報せられ度

(終)

陸 軍

1989



文書  
渉外課  
經濟部  
外務省

略號

至急電報譯

一月一日午前午後二時

五分

九分

第

46號

大臣宛 發信者 惠部 陳參謀 長(天津)

惠參り電案三三三號

北京公使ニ傳ヘシ度

華北各方面ヨリノ歸還邦人ハ天津郊外ノ貨物廠ニ集結後ニ十四時間以内ニ乘船セカルベカラシク狀況ナ  
ル所持歸リ金ノ引替證ニ関シテハ接收中ノ正金銀  
行が發行スル持歸リ金引替證ヲ取得スルハ技術的ニ  
困難ナル場合ヲ生ズ  
曩ニ還送セル邦人數千名ニ對シテハ遂ニ引替證送達

1991

正金銀行發行ノ引替證持參ス既ニ出發シタル數千  
名ニ就テハ便宜上陸地ニ於テ日本圓ノ交換(場合ニ依  
リ交付スハ貸與ハ實施方配慮アリ度

東京、右外務省及大藏大臣ニ

南京ハ南京大使館ニ傳ヘラレ度

通電先 次官 支總 参考 惠 桐

(辭)

1991-2



セシムルヲ得カリシ如キ實情ニ鑑ミ斯レ場合ノ應急  
處置トシテ乘船地總領事ヲシテ持歸リ金引替證  
ヲ便宜發行セシメ下船地ニ於テ日本政府ノ責任ニ依  
リ日本國ト交換セシムルヲトニ致度  
就テハ貴國係方面トモ打合セノ上至急實施シ得  
ル様御取計ヒ相煩ニ度  
通商見先 外務大臣 北京公使 南京大使

(終)

1992



不安甚クシク且當方在外機關トシテモ從來居留民ニ對シテハ  
預貯獎勵ヲ爲シ居リシレ關係上此ノ際右預金通帳ノ所在地  
持歸リハ是非共實現致サヒ度希望カレ付本件聯合軍司令部  
ト衛折衝ノ上諒解取付方配慮願度

(終)

1994



此モ、ニシテ中國戰區内ニ於ケル現下ノ全般事情最モ、トシテ通電ニ  
最モ、任上思考セラルニ付申添フ  
尚、第一復員省、右邊信院其他諸政府官廳ニ傳ヘテ之度  
通電先、第一復員省、支總復甲、登

終

1996



<p>追テ北京一福岡間ノ連絡ハ常ニ通延師還輸送ニ碍スル電報ノ大西ハ上      陸後到着スル如キ状況ニシテ還送業務ニ支障ヲ來スコト少カラズ百幣      ニ付念ノ儀</p>	<p>通電先 一復 参考 甲 西郡機員監認 支保備</p>	<p>( 終 )</p>
--	-------------------------------	--------------

1998





且主、副食及雑費ヲ支給シテルモノ、保有シテル一切ヲ失シ、  
倉庫等 概算  
モノトス

軍機関工場、倉庫等保有公金ニテ既ニ各接收單位ニ於テ  
別途處理シタルモノハ本辦法ノ適用範圍外トス

(2) 日軍公私現金收納ハ各地區受降主官ニ於テ集中管理  
理處ノ責任者ヲ利率ノ上其ノ他軍政部派遣ノ經理機關及  
國家銀行又ハ郵政機關ノ派遣員之會ノ下ニ日葡代表ヲ率  
現場ニ至リ收納ス

(3) 日本軍公金ノ收納ハ帳簿決算殘高ニ據ルモノトス  
又金庫及現金保管場所ヲ檢査スルコトヲ得  
私有現金ニ関シテハ各人ニ於テ收款報告單(收納申告票)  
ニ記入シ個別ニ收納ノ爲ニ派遣人員之會ノ下ニ行李ノ檢査  
ヲ行フコトヲ得

- (4) 公私現金收納後各受降主官ハ正式領收證ヲ作成適時別途部隊番號或ハ日俘姓名ヲ明記セル帳簿ヲ當司令部ニ提出審査ニ供スベシ
  - 各證明書、帳簿ニ收納派遣員及日本軍代表者署名捺印スルモノトス
  - (5) 公私現金收納後ハ直ニ現地國家銀行或ハ郵政機關ニ預金ノ上口座ヲ設置シ別途本部ニ電報ニ政府納付ノ處置ヲ待ツベシ
  - (6) 收納セル現金ニ新ニ関金偽幣、日本貨及各國貨幣並ニ硬貨、貴金屬ヲ含ム
- 但シ歸還輸送時携帶ヲ許サレタレ日本貨ハ保留ヲ許ス
- (7) 本辦法公布後ハ曩ニ本部ノ發セル政字第三七號訓令ニ定ル所ノ日軍保有ノ儲備券ハ當分ノ間接收セズトノ件ハ廢止ス

但シ兼ニ各主官ニ數量ヲ報告審査ヲ受クベシトノ件ニ関シテハ  
道ヲニ報告スベシ

(1) 現金收納ニ関スル實施細則ハ各受降主官ニ於テ現地ノ實  
情ヲ斟酌シテ適宜制定嚴密ニ施行スベシ

(2) 日軍各連絡機關ノ連絡事務上必要ナル現金ニハ別途之  
ヲ制限ス

※ 上

ニ尚右ニ関シ各地ノ實施細則制定前ニ收納ヲ實施セラルルヲ避クル  
如ク努ムルト共ニ現地ノ實情斟酌及實施ニ當リテノ彈力ヲ保持  
ニ就テハ特ニ検査折衝ニ處理ニ努力シ善處相成度  
追ッテ検査ノ場合ニ當リテハ掠奪等不詳事惹起ニナル様留  
意スルト共ニ検査ハ各機關立會ノ上封印等ノ方式ニ據リ無制限  
陷ラハル如ク指導アリ度

通電先 各單

参考

次官、支復

(終)

2002

支

略 號

昭和二〇、一二、二七

持券金ノ日本國兌換證

宛 次 官

細繼主電第五三八號

持券金ハ況左ノ如シ

返 信

支那派遣軍總參謀長一隊京

一復電第一〇一號ニ依リ各地トモ復員管理處ノ日本國兌換證書ヲ携行  
セシムル如ク流通ヲ指導シテモ既ニ部隊轉移ノ預證ヲ發行済ニシテ  
該處ヲ復員管理處ノ日本國兌換證書ヲ交付シ難キモノハ右預證ヲ其ノ  
儘發行セシムルニ付承知相成腹

通電先 一復 参考 支復誌

2003

支

凡快電博多支

略號至急電報

宛 次官

福海上陸地支局長(福岡)

福支船電第六四號

凡快凡八十二月二十七日十時零分博多支出港又

一 航路 博多→清州島南端→吳淞寄港(三十日四時零

分)入港(予定)→上海

二 便乘者 華入留學生一名 米軍二從軍人 軍人一名

三 波調數 上海陸戰隊伍世保通信隊 博多武官付

四六七〇ケ

通電先 次官、支總、三船司

參 考 西訂復員監部

凡三

一三 二九

六一四〇〇卷

一三 六一六〇〇卷

六一八〇〇卷

六一三〇〇卷

2004

發所

電第 號其

月 日

附

首譯録

尚一極、敵意ノ損害及接收セラシムル現地日本  
 機意ニ就テハ將來評價ト資料ヲ極力蒐集整理  
 中十九日右評定ノ機意ニ就テハ新案ノ範圍拡張  
 希望云々

物

通電先 軍務局長 兼 陸軍省 大塚館 南条

海軍

2005